

## 菊本副院長の漢方問答 その 75

問 「肥満の漢方治療とはどのようなものですか？」⑤

答 肥満の漢方治療について、お話を続けます。表の「水太りタイプ」の三番目、九味檳榔湯(くみびんろうとう)に関して、私は、知識も使用経験も持ち合わせていませんので、割愛させていただきます。今回は、「瘀血(おけつ、要するに「血の流れが悪い」ということ)を伴う場合」の一番目、桃核承気湯(とうかくじょうきとう)についてお話しします。

表 肥満の頻用処方

固太りタイプ	防風通聖散、大柴胡湯、大承気湯
水太りタイプ	防己黄耆湯、越婢加朮湯、九味檳榔湯
瘀血を伴う場合	桃核承気湯、桂枝茯苓丸
気逆・気鬱を伴う場合	柴胡加龍骨牡蠣湯、桃核承気湯、加味逍遙散、抑肝散、半夏厚朴湯

(日本東洋医学会、「漢方医学テキスト」)

桃核承気湯は、漢方の重要な古典である「傷寒論(しょうかんろん)」に登場します。構成生薬は、桃仁(トウニン)、桂枝(ケイシ)、芒硝(ポウショウ)、大黄(ダイオウ)、甘草(カンゾウ)です。

図 1



123

桃核承気湯図

「下腹の血の流れが悪くなり、そこが熱をもつようになると、精神的にも過敏となる。血の流れが回復すれば、自然に治癒する。もし治癒しなければ、血の流れを改善し、熱をとる治療を施すべきである。特に『少腹急結』がある場合には、桃核承気湯が有効である」と、傷寒論の条文に記載されています。

図 1 は、江戸時代に発刊された「腹證奇覧翼(ふくしょうきらんよく)」の中にある桃核承気湯の腹証図です。お腹の左側に所見があることが分ります。

図 2 は、私の漢方の師匠がかかれた桃核承気湯の腹証図です。左の下腹が硬くなり、おさえると痛みます。これが「少腹急結」です。

桃核承気湯は、桃仁を主役として、この「少腹急結」を退治し、血の流れを改善します。

図 2

